ARTnews アートニュース 日本版
世界主要51都市の特派員が、アートの今をリポート
1994/MAY 5

UNITED : ALL THE CONTINENT

Galería Las Americas
Los Angeles
October 22 - December 17

「アメリカ大陸統合」展

会場：ガレリア・ラス・アメリカス、ロサンジェルス

会場には、アメリカ全土—南米、中米、北米—から集めた150点もの作品が、ごちゃまぜに展示されている。画廊のオーナーであるリンダ・バーエホーは、他の49人のラテン系作家とともに、自分自身の作品をもちゃっかり売りに出していた。

彼女は、一部の隙もないほど壁を作品で埋め尽くし、作品が売れると、また別の作品を仕入れて穴埋めをする。とはいえ、この徹底した商売人根性を非難することはできない。彼女は、ラテン・アメリカ美術に対する人々の関心を高め、ロサンジェルスではほとんど発表のあてのないアーティストのために、活気に満ちた場を提供しているのだから。

バーエホーのグワッシュの作品では、女性の無意識と、宗教や道徳の問題が掘り下げられている。「邪悪と無邪気(Evil and Innocence)」では、2人の悪鬼じみた人物が、頭部がピンクの蝶になっている女性の裸体をじろじろ見ている。イサベル・マーティネスは、苦悩する女の姿を表現主義的な様式で描く。「美の代償(The Price of Beauty)」は、ミクスト・メディアの切り絵だが、バスローブにくるまり、髪にローラーをつけて、顔には美顔クリームを塗りたくった女の姿が描かれている。

紙に石膏を敷いて水彩で描くという、フレスコに似た技法により、より軽快なタッチで描かれるのは、テディー・サンドヴァルの作品。夢幻の画像では、羽根のついた心臓や十字架、人物が水のなかに沈んでいる。ファン・アンヘル・カスティーリョが描くキリスト像は、針金のような線を巻きつけられていた。

—スザンヌ・マクニック

リンダ・バーエホー「邪悪と無邪気(Evil and Innocence)」(1993)
キャンヴァス、グワッシュ　30×22インチ
Galería Las Americas